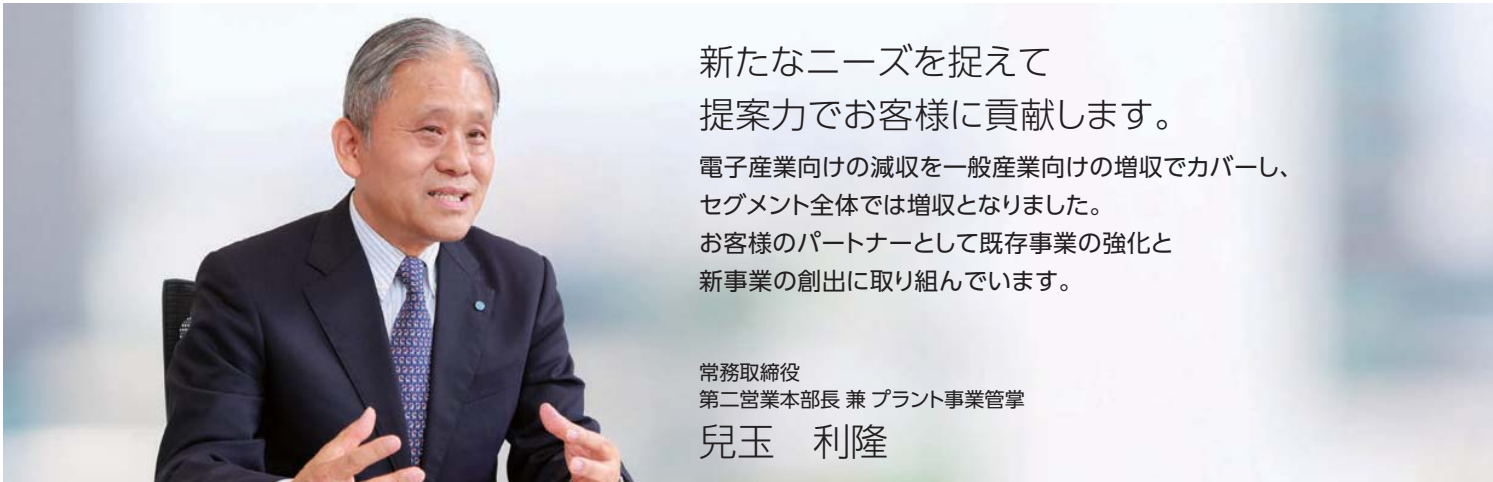


事業セグメント別概況 水処理装置事業



新たなニーズを捉えて
提案力でお客様に貢献します。

電子産業向けの減収を一般産業向けの増収でカバーし、セグメント全体では増収となりました。お客様のパートナーとして既存事業の強化と新事業の創出に取り組んでいます。

常務取締役
第二営業本部長 兼 プラント事業管掌
兒玉 利隆

2017年3月期の概況

電子産業分野向けでは、海外大型水処理装置の受注が一巡したことに加え、一部の超純水供給事業において契約の変更があり、全体の受注高は減少しました。売上高は、海外で増加しましたが、超純水供給事業の影響により減収となりました。

一般産業分野向けでは、火力発電所向け水処理装置や土壌浄化の大型案件の獲得に加え、メンテナンス・サービスが好調に推移したことにより、受注高が増加しました。同分野向けの売上高は、土壌浄化やメンテナンス・サービスの増加により、全体では増収となりました。

事業全体の営業利益については、水処理装置とメンテナンス・サービスにおいて採算改善があったものの、超純水供給事業の減収の影響を受け減益となりました。

市場環境

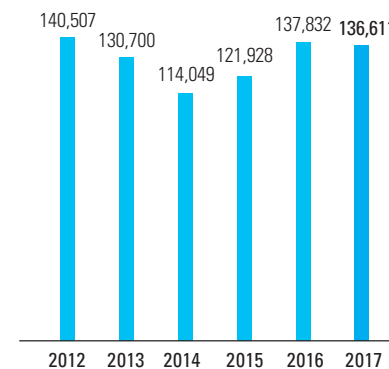
国内では半導体、スマートフォン関連で大型の設備投資が2016年後半から増えてきています。また電力自由

化に伴い、発電事業に参入するお客様から、用排水処理装置を発注いただいています。このほか、物流倉庫や大型のショッピングモールなど、郊外の大きな土地の流動化が進んでおり、土壌浄化のニーズが顕在化しています。また食品や医薬といった産業における設備投資は引き続き堅調ですが、今後は化学や鉄鋼といった産業で老朽化設備の更新と併せて、効率化や省エネルギーについてのニーズが高まると見えています。ただし、国内の戦略を考えると、各業界の中で、「競争力のある製品」をつくるお客様の設備投資の動きを着実に追っていかなくてはなりません。

海外については、液晶・半導体関連が中心となる中国、韓国では、高水準の設備投資が続くと見えています。特に当社が高いシェアを持つ中国の電子産業では、国策により補助金の投入が見込まれるため、ここ数年は活発な設備投資が行われると思われるほか、排水規制の強化により、排水回収再利用装置のニーズが高まっています。こうした動きを捉えて、すでに当社では水資源が乏しい中

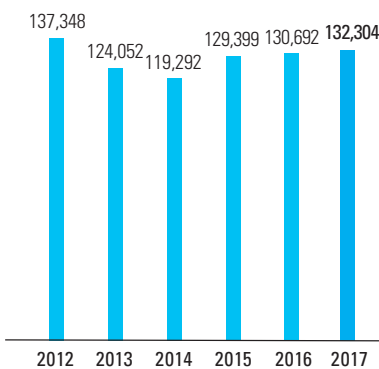
受注高 (百万円)

3月31日に終了した会計年度



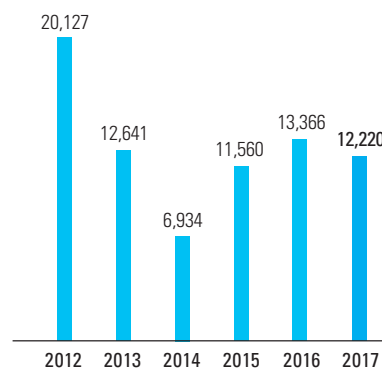
売上高 (百万円)

3月31日に終了した会計年度



営業利益 (百万円)

3月31日に終了した会計年度



国、東南アジア、シンガポールに向けて新しい排水回収システム「CORR™システム」を開発しています。

成長戦略

小回りの利く企業へ

今や一般的な純水装置や排水処理装置はコモディティ化しつつあります。こうした中で、他社との違いを出すために、当社では、これまで培ってきた「提案力」「コスト競争力」「対応力」の向上を図っています。2017年4月からは、お客様に最良のソリューションを提供するため、新たな組織体制をつくり営業活動をスタートしています。超純水供給事業のようにお客様の長期的な経営計画に基づく大規模な設備投資を支援するだけでなく、お客様からのご相談やご依頼に対してスピーディーに解決策を提示する小回りの利いたサービスを提供できる企業として顧客満足の上をめざします。

さらに当社では現在、全社を挙げてIT戦略を推進しています。ITによって業務を効率化することで、社員はお客様のための提案活動に集中できるようになると同時に、製品やサービスの品質向上にもつながるものと考えています。具体的には、3D CADによる設計業務のデジタル化で生産性とコスト競争力を高めるといった取り組みを徹底していきます。

新しい事業を創出

当社では、さまざまな分野において新事業への取り組みを強化しています。低炭素社会を実現する新エネルギーとしてバイオマスが注目されていますが、当社では、すでに「乾式メタン発酵技術」を開発し、廃棄物から発生したバイオガスを回収し、燃料や電力として利用することを可能にする国内の設備に提供しています。また、従来からの事業についても、例えば超純水供給事業を半導体や液晶以外の業種へ展開する、あるいは他社との協業によって事業の規模を拡大する、といった構想を形にしていきたいと考えています。

次世代ニーズへの対応

長年、超純水供給事業を展開する当社は、今まさに起こりつつあるIoTやAIによる工場のイノベーションに、水処理装置を通して貢献できると考えています。お客様の工場ではネットワークカメラやロボットが導入され、生産活動のコンピュータ制御が進んでいきます。進化する工場において、当社の水処理装置がお客様の生産活動の変化に合わせて、「新たに必要になる水を最適な形で供給する」「運転方法を変えて最適な状態を維持する」といった姿をお客様と協働しながら実現していきたいと考えています。

水処理薬品と水処理装置の技術の融合から生まれた排水回収システム「CORR™システム」

排水回収システムは、「用排水量の削減」のみならず、「電気や蒸気使用量の削減」など、お客様に対してさまざまなメリットを提供することが可能で、水資源の乏しい海外地域を中心に大きな潜在市場があります。そこで当社は2017年、①前処理薬品、②除濁膜、③RO（逆浸透）膜薬品、④RO膜のみから構成したシンプルで低コストの標準型排水回収システム「CORR™システム」を開発しました。「CORR™システム」は、構成ユニットの高機能化を図っただけでなく、多種多様な原水水質に応じて膜や薬品を選定でき、柔軟にシステムを最適化できる特長があります。従来システムに比べ、イニシャルコストとランニングコスト双方の大幅

な削減を実現し、「規制対応・環境保全と、排水回収による経済メリットの両立」という、顧客要求が最も厳しい中国市場を主たるターゲットとして営業展開を強化していきます。

排水回収システム「CORR™システム」

